

## 2016 年卒学生の早期就職意識調査

2016 年卒業予定者の就職活動からスケジュールが大幅に変わる。就職活動解禁（企業の採用広報活動開始）が「大学 3 年生の 3 月」、面接開始が「大学 4 年生の 8 月」に繰り下がる。この変更は、学生の就職活動や就職意識にどのような影響を及ぼすのだろうか。ディスコでは「日経就職ナビ 2016」会員を対象に、新スケジュールへの考えや就職活動の準備状況、インターンシップの参加状況などを調査した。

### 【調査内容】

#### 1. 就職活動について . . . . . P 2

- [1] 新スケジュールへの認知度
- [2] 新スケジュールへの見解
- [3] 時期繰り下げにより生じる時間の使い方
- [4] 就職活動の準備状況

#### 2. インターンシップについて . . . . . P 5

- [1] 情報収集と応募状況
- [2] 応募社数
- [3] 参加状況
- [4] 参加社数
- [5] 参加期間
- [6] 参加の時期
- [7] インターンシップ経験による成長実感
- [8] インターンシップ経験と就職意向

#### 3. インターンシップ参加有無別データ . . . . . P 10

- [1] 新スケジュールへの認知度／インターンシップ経験の有無別
- [2] 時期繰り下げにより生じる時間の使い方／インターンシップ経験の有無別
- [3] 就職への有利度／インターンシップ経験の有無別
- [4] 就職戦線の見方／インターンシップ経験の有無別

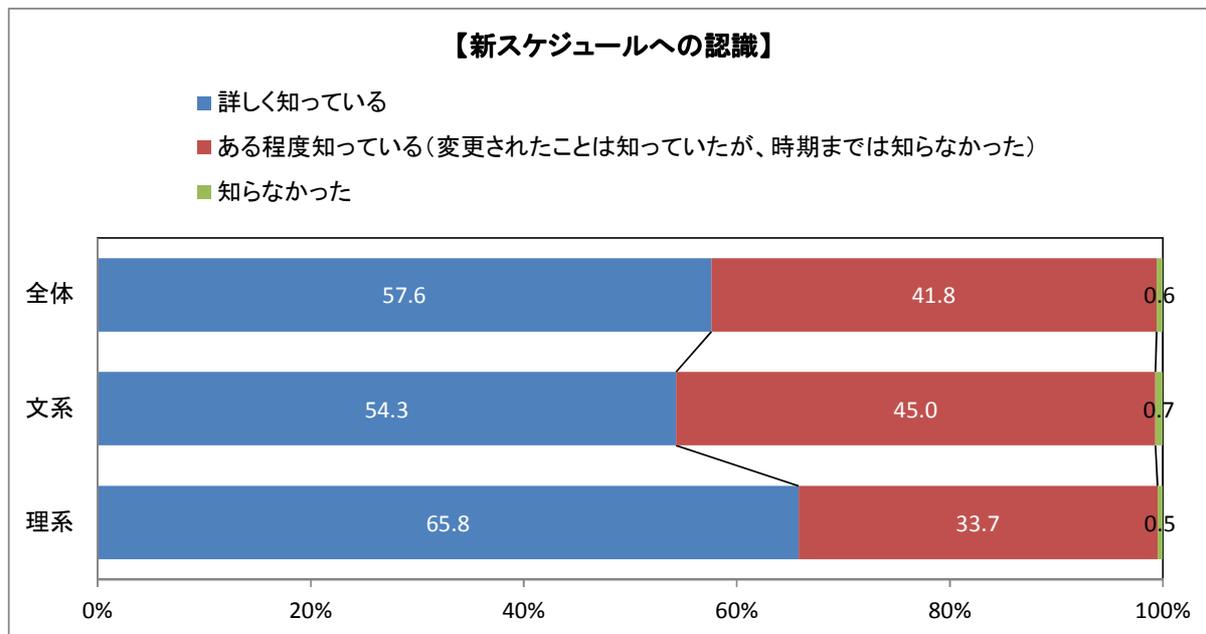
### 《調査概要》

調査対象 : 2016 年 3 月卒業予定の全国の大学 3 年生（大学院修士課程 1 年生含む）  
回答数 : 1,420 人（文系 1,011 人、理系 409 人）  
調査方法 : インターネット調査法  
調査期間 : 2014 年 10 月 1 日～10 日  
サンプリング : 「日経就職ナビ 2016」会員

## 1. 就職活動について

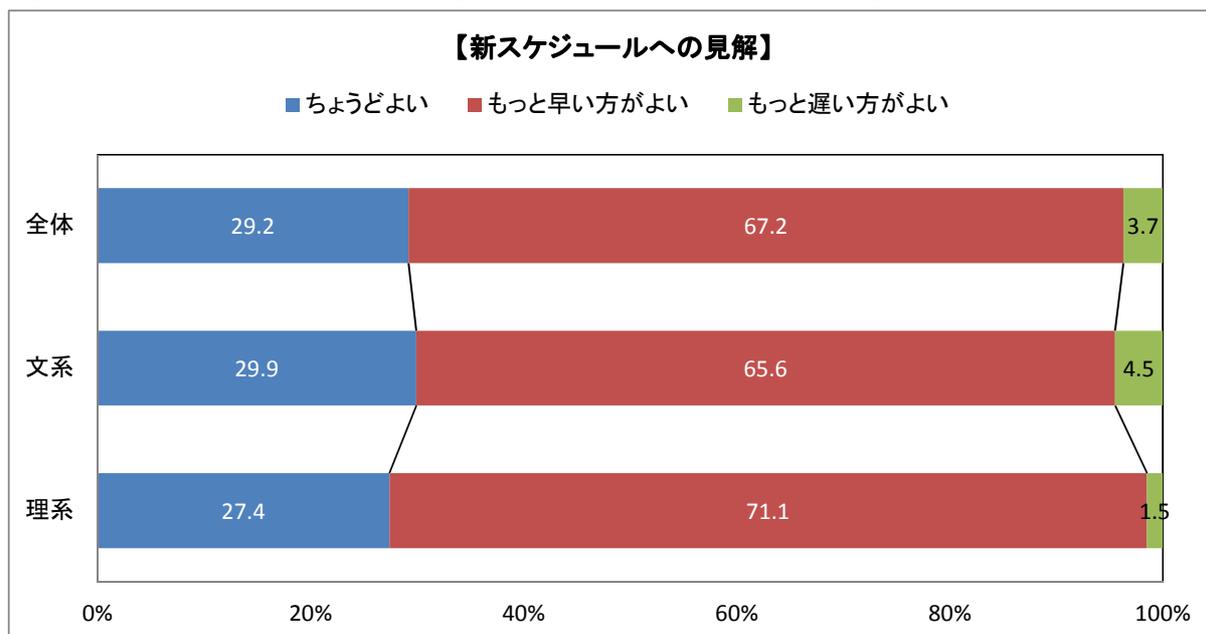
### [1] 新スケジュールへの認知度

就職活動スケジュールの変更（大学3年生の3月に採用広報解禁、大学4年生の8月に選考解禁）について、どの程度知っているかを尋ねた。「詳しく知っている」（57.6%）、「ある程度知っている（変更されたことは知っていたが、時期までは知らなかった）」（41.8%）を合計すると99.4%で、ほとんどの学生が変更を認知していた。文理別に見ると「詳しく知っている」との回答は理系に多く、文理で11.5ポイントの差が見られた。



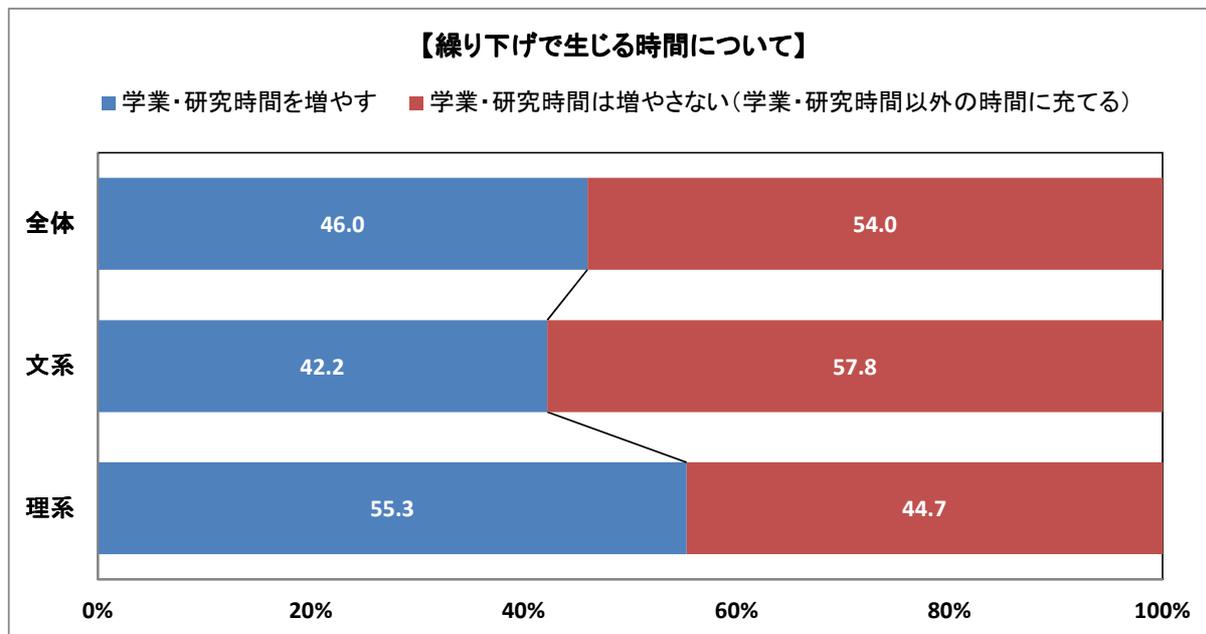
### [2] 新スケジュールへの見解

新スケジュールについてどう思うかを尋ねたところ、「ちょうどよい」との回答は29.2%にとどまり、7割近く（67.2%）の学生が「もっと早いほうがよい」と回答した。「もっと遅いほうがよい」は3.7%と極めて少数。文理ともに、早期の就職活動を望む声が多い。

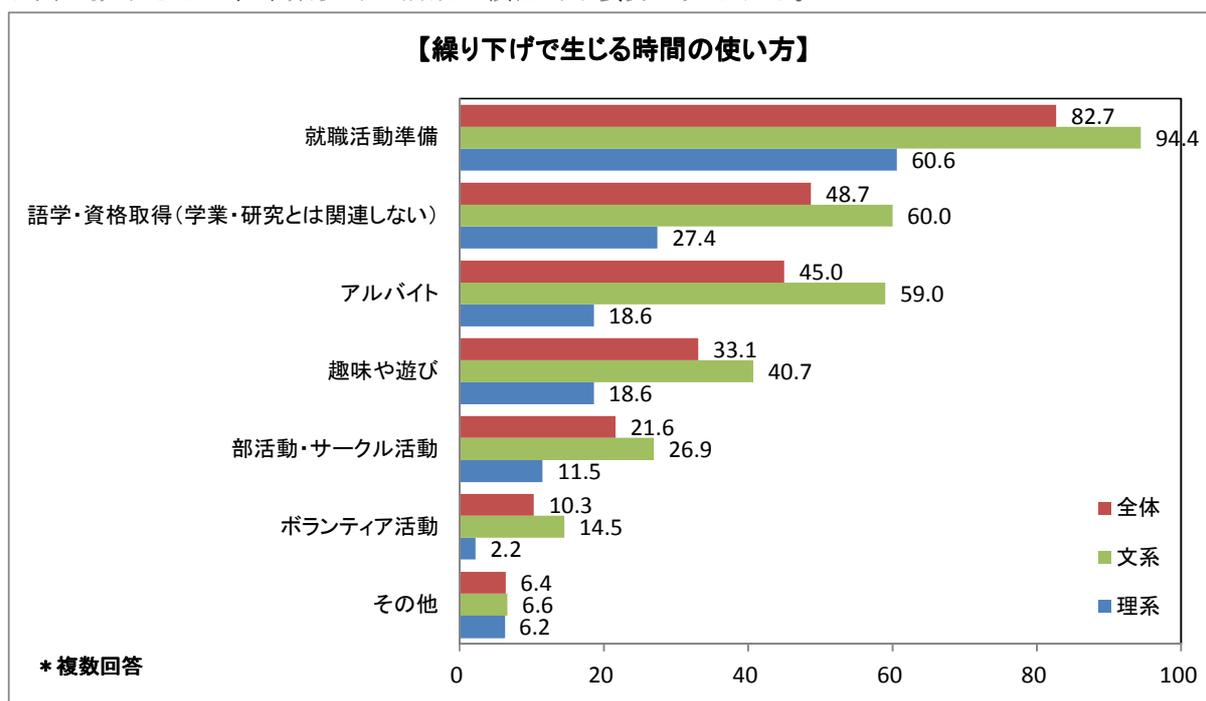


### 【3】時期繰り下げにより生じる時間の使い方

今回の活動時期繰り下げの意図は、「学生が本分である学業に専念する十分な時間を確保する」ことにある。そこで、就職活動の開始が3カ月遅くなった分、学業や研究の時間を増やすかどうか聞いたところ、「増やす」(46.0%)に対し、「増やさない」との回答は54.0%と半数を超えた。一般に学修時間が少ないと言われている文系のほうが、「増やさない」との回答が多いのは皮肉な結果と言える。



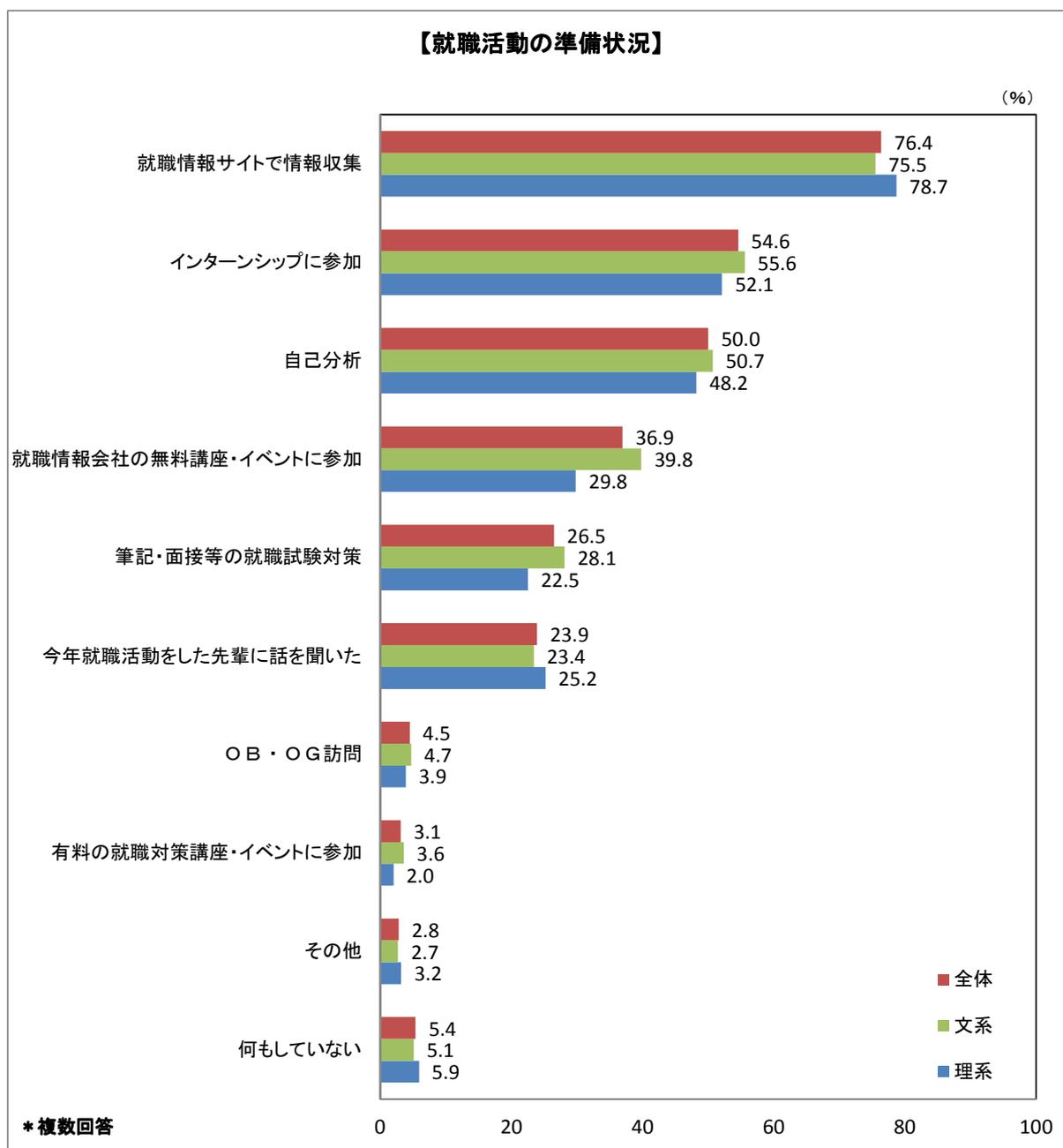
また、「増やさない」と回答した学生に、学業以外のどんな活動に充てるつもりかを重ねて尋ねた。最多は「就職活動準備」で、8割強(82.7%)。次いで「語学・資格取得(学業・研究とは関連しない)」(48.7%)、「アルバイト」(45.0%)と続く。文系は「その他」以外の全項目で理系より高い数字を示し、学業以外の活動に積極的な姿勢が見られる。



#### [4] 就職活動の準備状況

10月時点で、就職活動の準備として行っている内容を尋ねた。最多は「就職情報サイトで情報収集」の76.4%で、文系(75.5%)・理系(78.7%)ともに1位となった。就職活動の準備段階において、「就職情報サイト」の存在意義は大きいことがわかる。次いで「インターンシップに参加」(54.6%)、「自己分析」(50.0%)と続く。スケジュール繰り下げにより生じた期間にインターンシップを実施する企業が増加しているが、実際にインターンシップに参加した学生は半数超となった。

一方、「何もしていない」と回答した学生は5.4%と少数だ。前述のとおり、16年度は就職活動の開始が3カ月遅くなったが、多くの学生(94.6%)は、10月時点で既に何らかの就職活動準備を始めている。見通しの立てづらい2016年度の就職戦線であるが、早めのスタートを切り、本格的な就職活動に備えようという学生の姿がうかがえる。

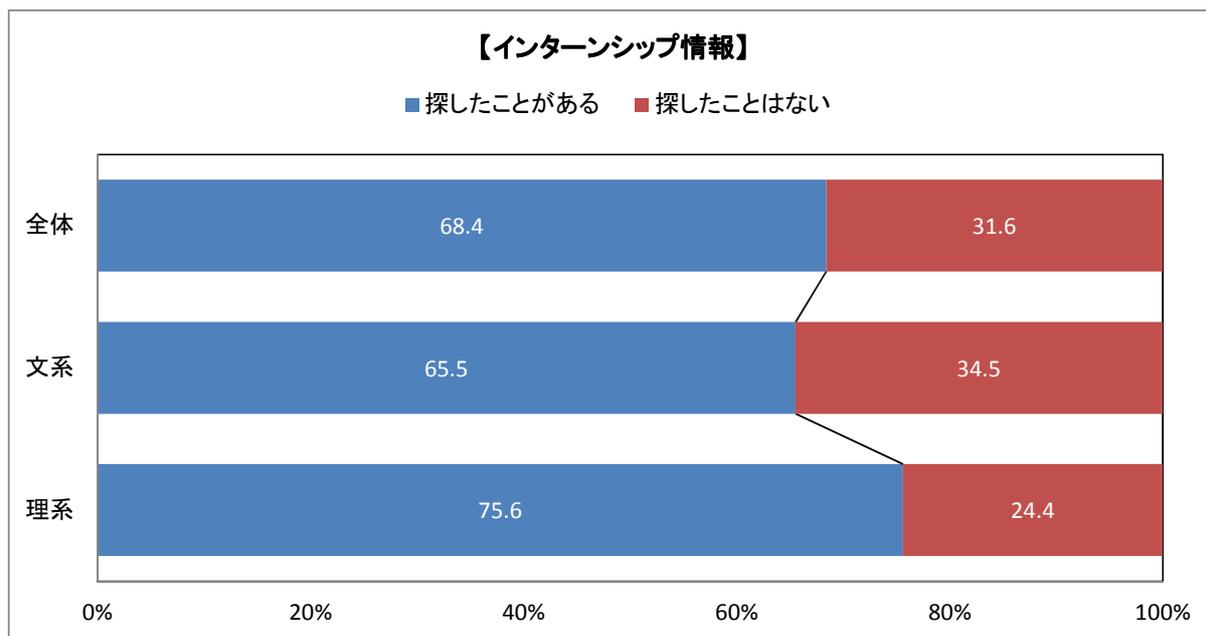


## 2. インターンシップについて

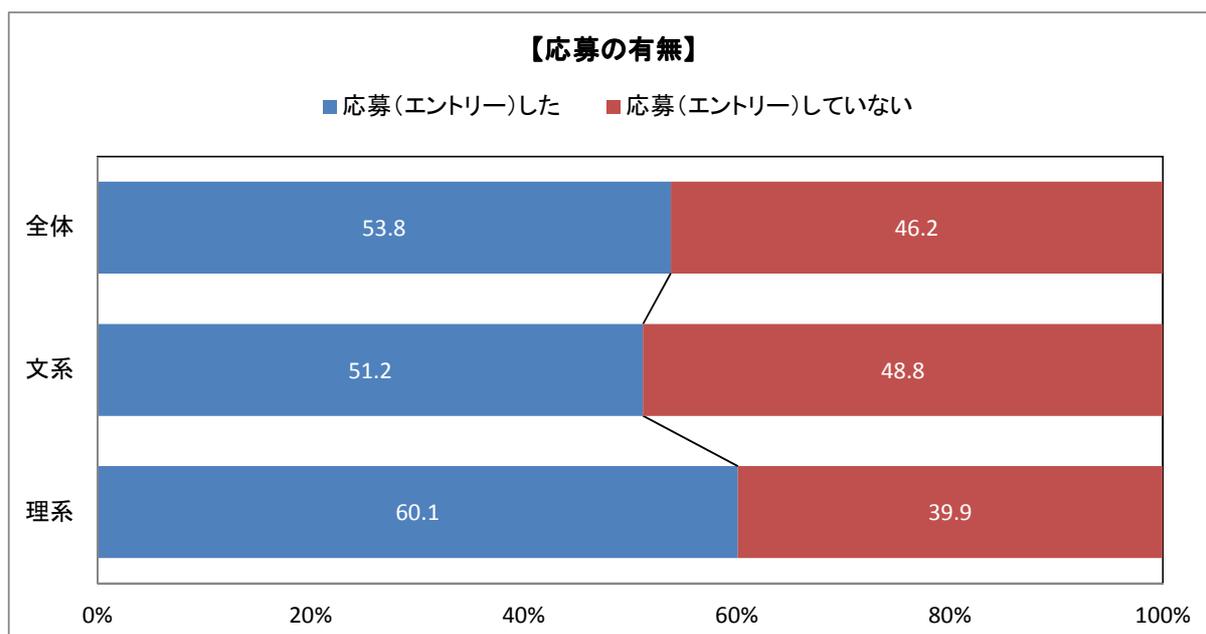
### [1] 情報収集と応募状況

ここからは、学生と企業の早期の接点として注目を集めるインターンシップについて、見ていこう。

はじめに、インターンシップに関する情報を探したことがあるかを尋ねたところ、7割近く(68.4%)の学生が「探したことがある」と回答した。多くの学生が、インターンシップに関心を寄せている様子が見える。情報収集に積極的な学生は、文系(65.5%)より理系(75.6%)のほうが多く、「探したことがある」との回答に10.1ポイントの差が見られる。

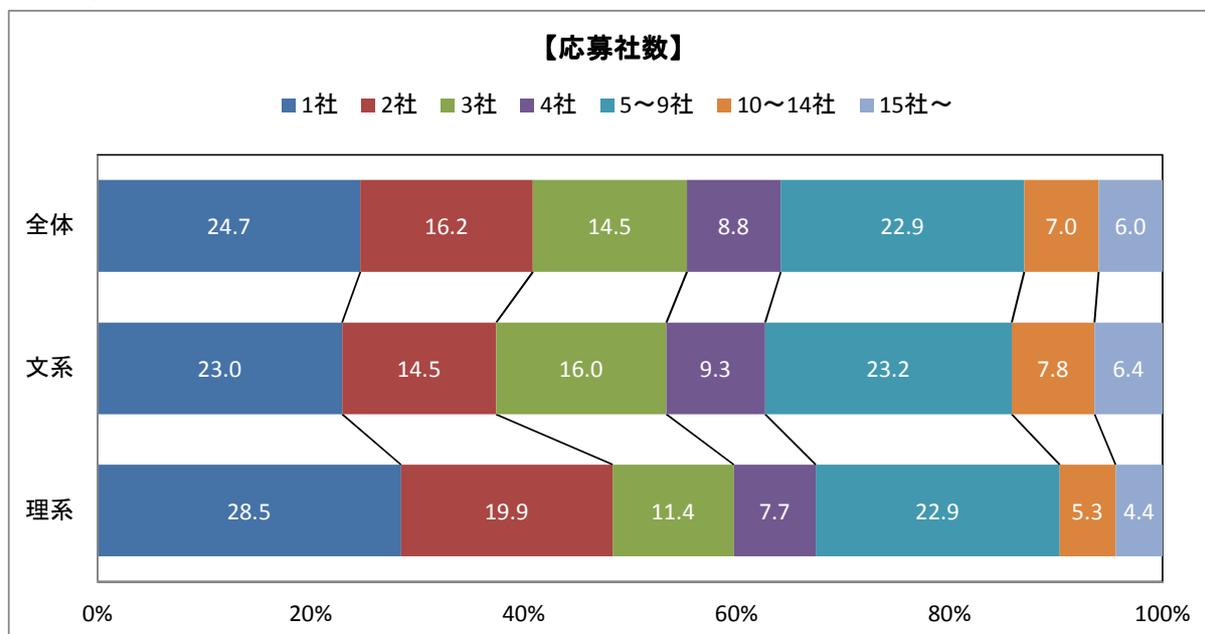


また、実際に応募(エントリー)したかを尋ねたところ、応募した学生が53.8%と半数を超えた。応募においても、文系(51.2%)より理系(60.1%)の学生に積極的な姿勢が見られた。



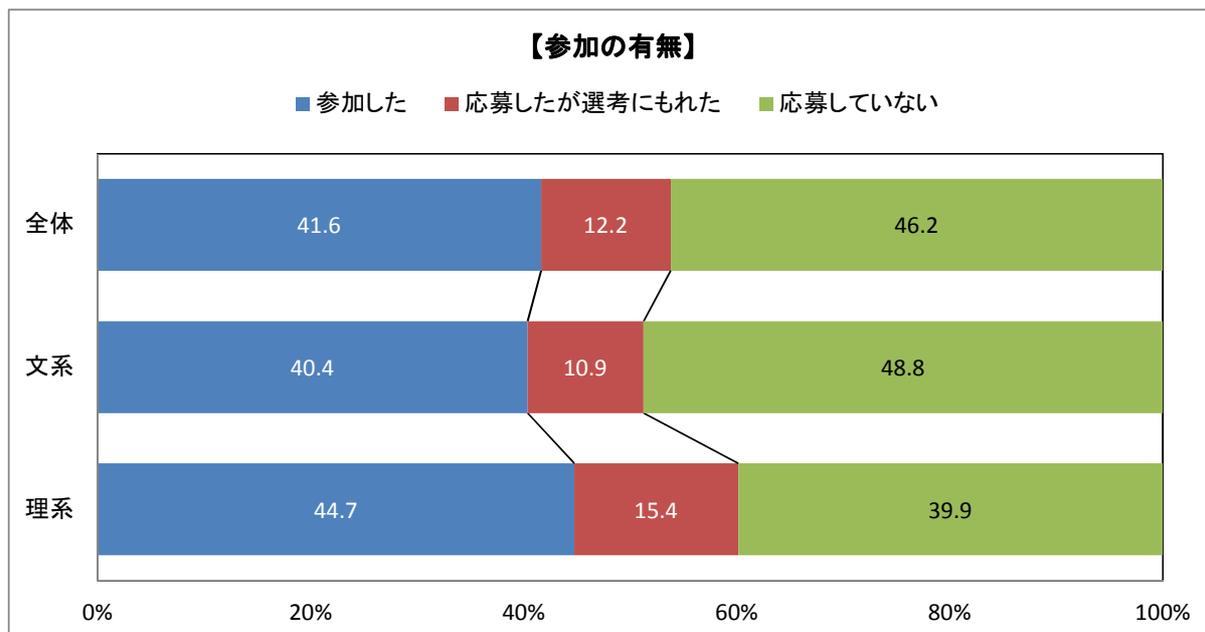
## [2] 応募社数

応募(エントリー)した社数を尋ねたところ、最も多かったのは「1社」(24.7%)。文系(23.0%)と理系(28.5%)で5.5ポイントの差があるものの、ともに最多は「1社」だった。残りの7割以上(75.3%)の学生は、複数の企業に応募している。10社以上に応募経験をもつ学生は13.0%に上る。



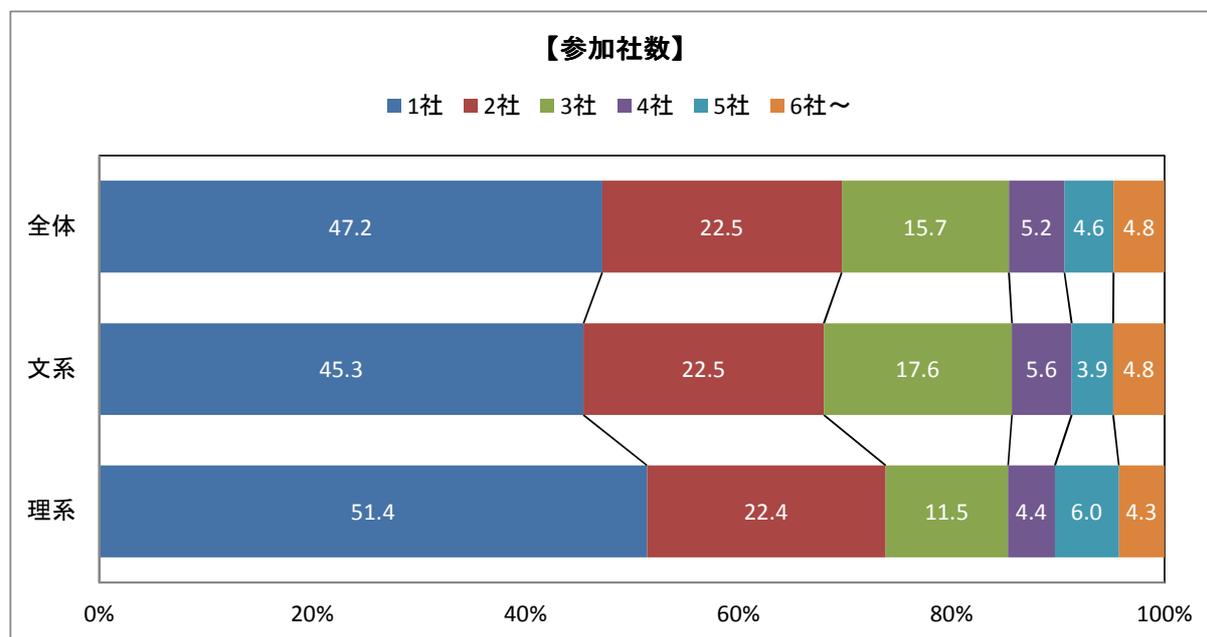
## [3] 参加状況

インターンシップへの参加状況を尋ねた。前述のように、応募経験のある学生は53.8%だったが、応募者のうち2割強は選考にもれるなどし、実際に参加できた学生は全体の41.6%だった。文理別で見ると、参加した学生は文系40.4%、理系44.7%で、理系のほうが高い数字となった。



#### [4]参加社数

インターンシップに「参加した」と回答した学生に、参加社数を尋ねたところ、半数近く(47.2%)の学生は「1社」と回答した。次いで、「2社」(22.5%)、3社(15.7%)と続く。

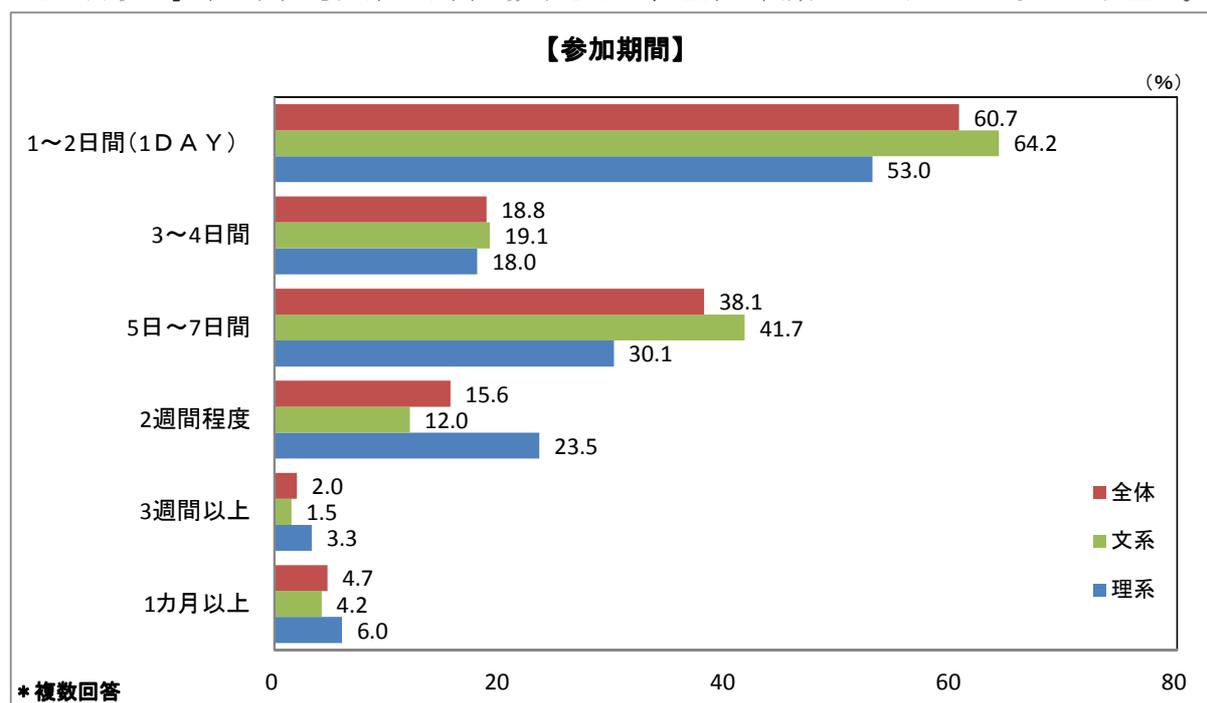


#### [5]参加期間

次に、参加したインターンシップについて、詳しく見ていこう。

インターンシップの参加期間は、「1～2日間(1DAY)」が60.7%で最も多かった。「3～4日間」は2割弱(18.8%)で、「5日間以上」を定める倫理憲章の条件を満たさないショートプログラムへの参加が多い。

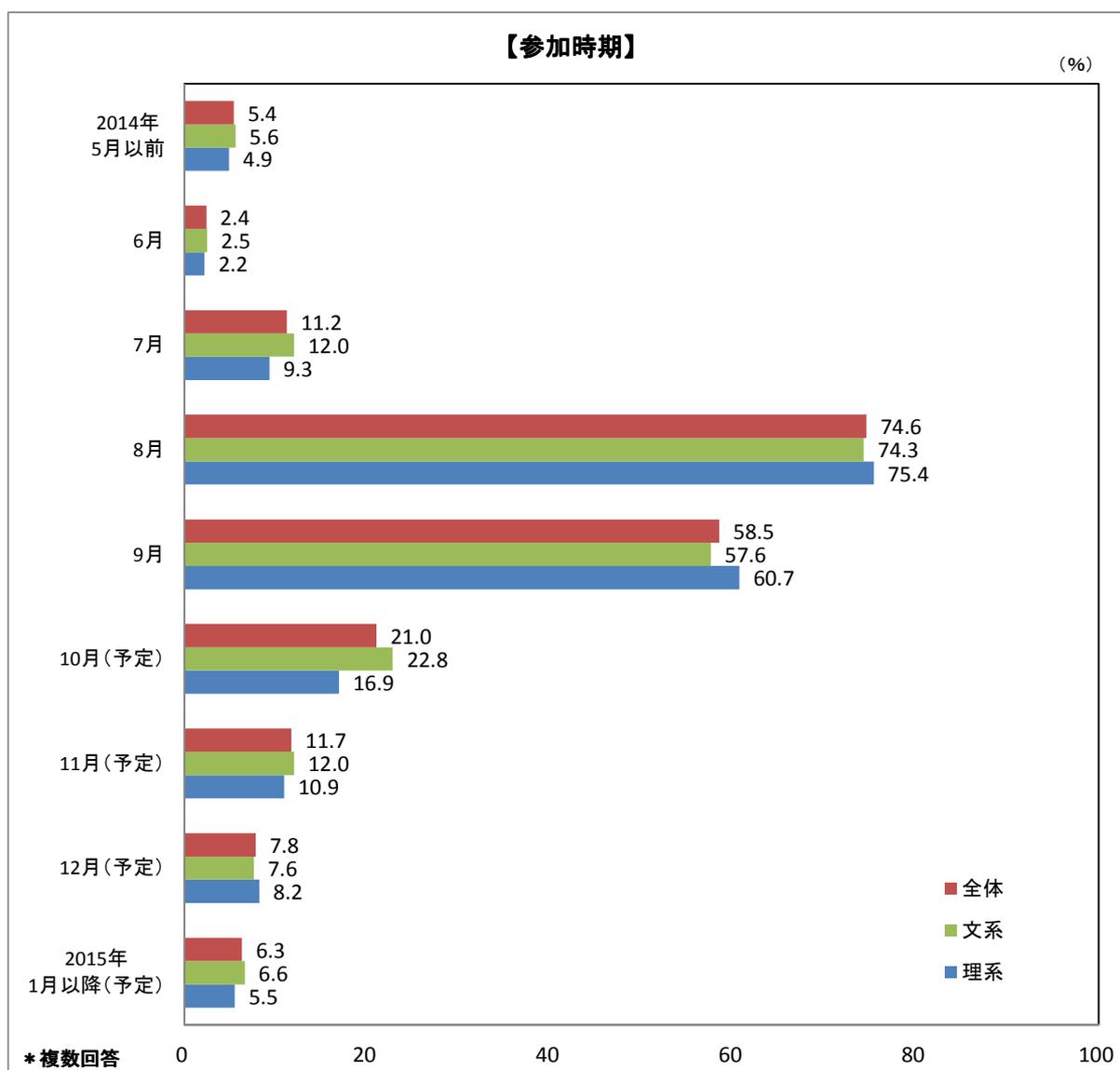
また、理系において「2週間程度」が23.5%と、文系より多いのが目を引く。「3週間以上」(3.3%)、「1カ月以上」(6.0%)も文系より高い数字を示し、理系の長期プログラムへの参加が目立つ。



## [6]参加の時期

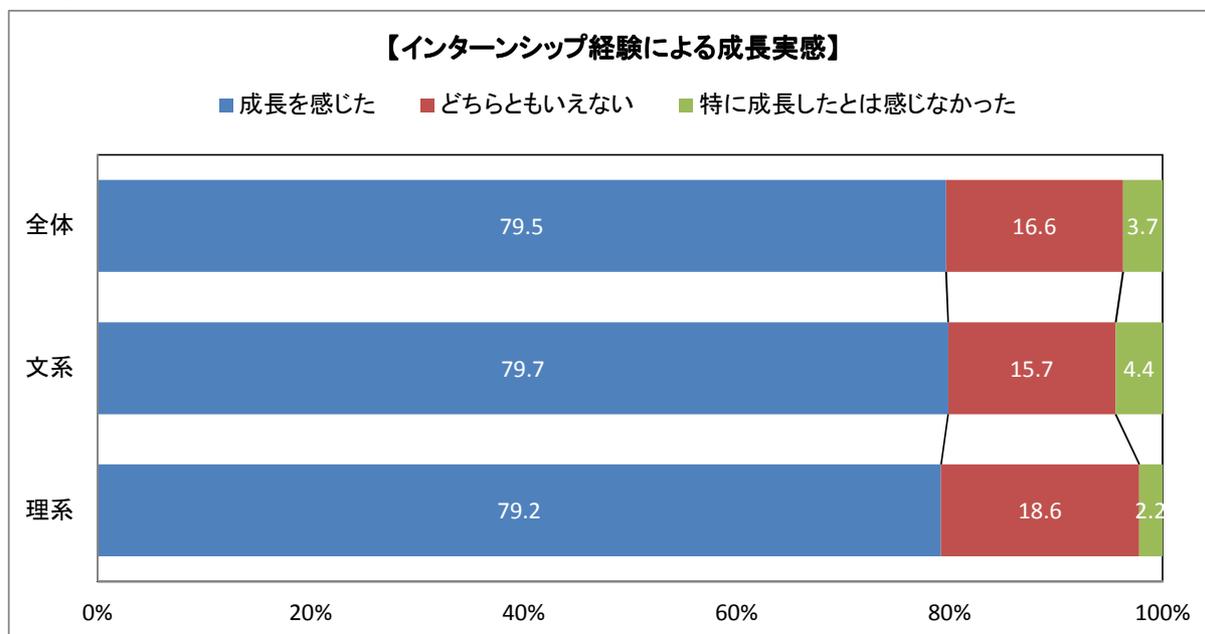
参加した時期は、「8月」が74.6%と最も多い。次いで「9月」が58.5%で、6割弱となった。やはり、夏休みの参加が多いようだ。

さらに、今後の参加予定についても確認していこう。「10月」(21.0%)、「11月」(11.7%)、「12月」(7.8%)、さらに「2015年1月以降」(6.3%)と、秋や冬にインターンシップの参加を予定する学生が続く。秋以降に開催を予定する企業が増加傾向にあるが、そのような状況を受け、学生の参加予定も増加していると見られる。就職・採用活動における時期の繰り下げが、インターンシップの参加時期にも影響を及ぼしている。



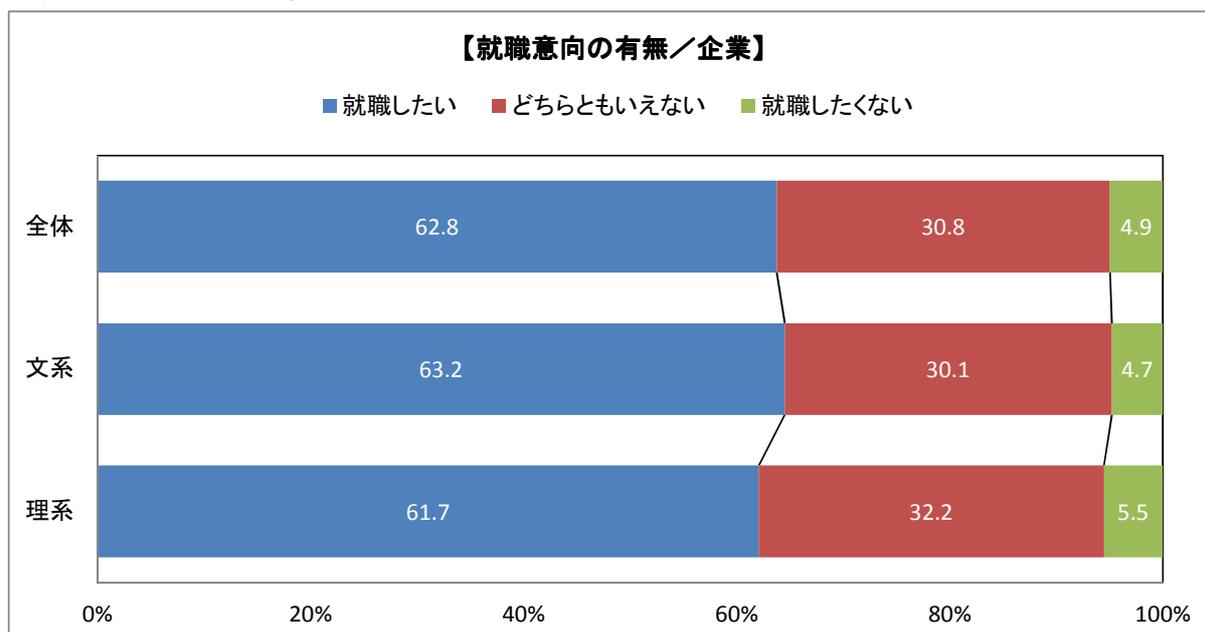
### [7] インターンシップ経験による成長実感

インターンシップを経験することで、自身の「成長を感じた」学生は79.5%と、約8割にのぼった。「特に成長したとは感じなかった」とする学生は3.7%と少数だった。文理に大きな差は見られず、「成長を感じた」とする学生は、文系(79.7%)も理系(79.2%)も、ともに約8割となった。

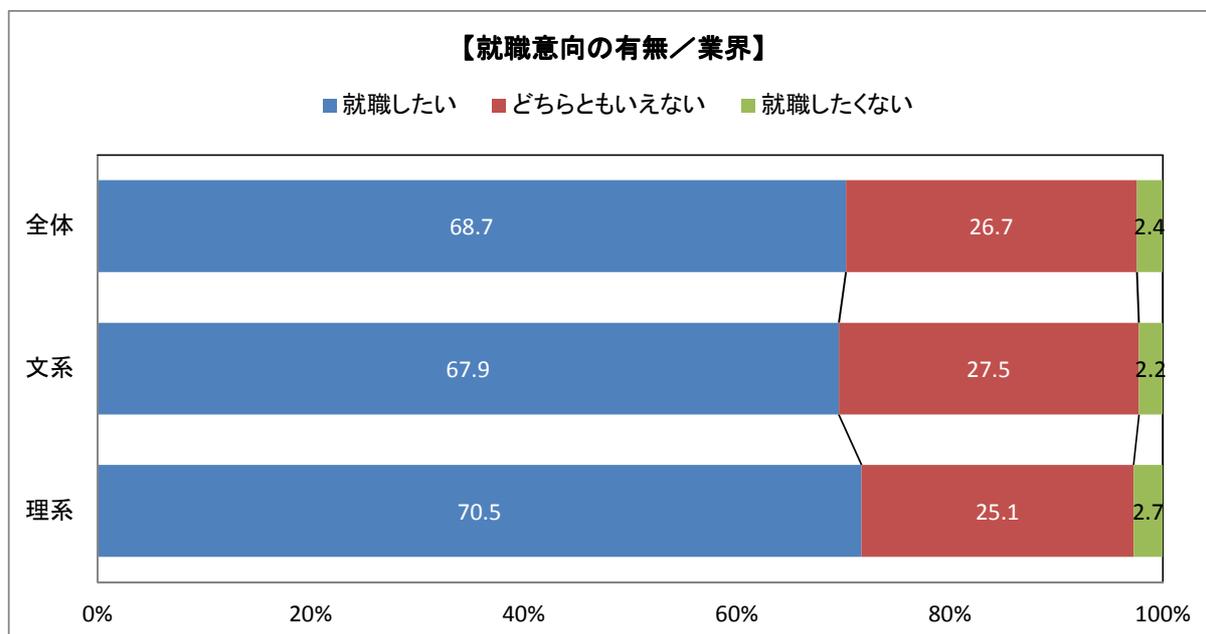


### [8] インターンシップ経験と就職意向

インターンシップに参加した企業への就職意向を尋ねたところ、「就職したい」との回答が62.8%にのぼった。一方、「就職したくない」との回答は4.9%にとどまり、「就職したい」が「就職したくない」を大きく上回る結果となった。また、「どちらともいえない」という回答も30.8%と3割を超える。就職活動解禁前で、他の企業との接点がほとんどないことを差し引いても、高い数字と言えるだろう。



次に、インターンシップに参加した企業が属する「業界」への就職意向を尋ねた。「就職したい」との回答が68.7%に対し、「就職したくない」との回答は2.4%で、インターンシップ参加企業と同じく、「就職したい」が「就職したくない」を大きく上回る結果となった。

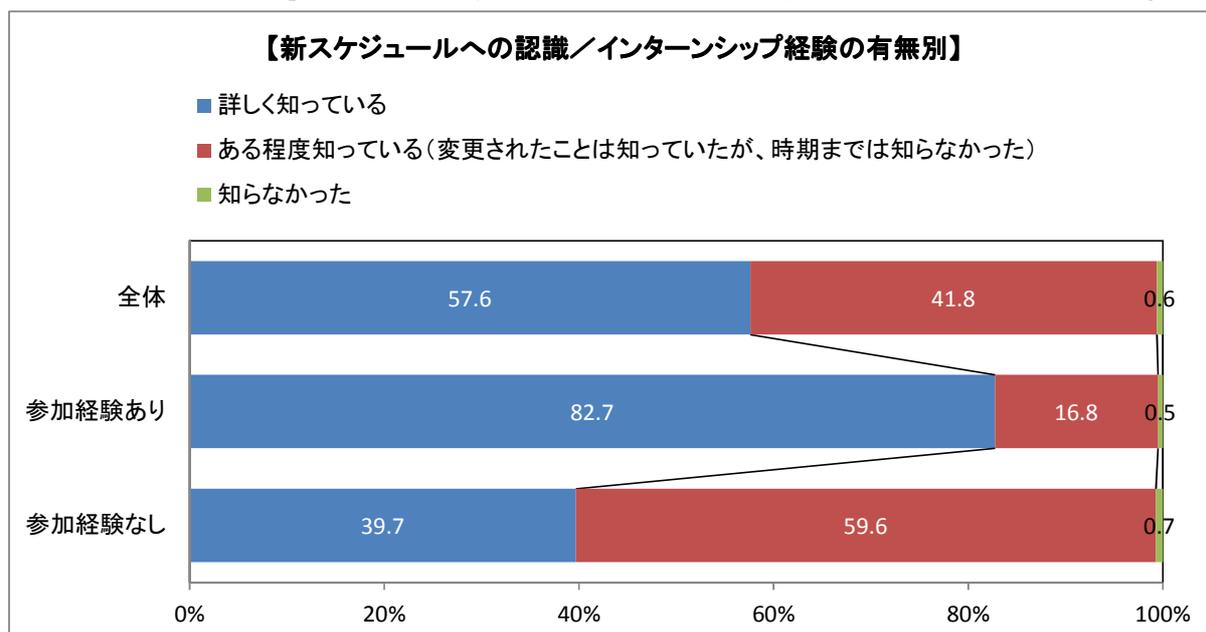


### 3. インターンシップ参加有無別データ

#### 【1】新スケジュールへの認知度／インターンシップ経験の有無別

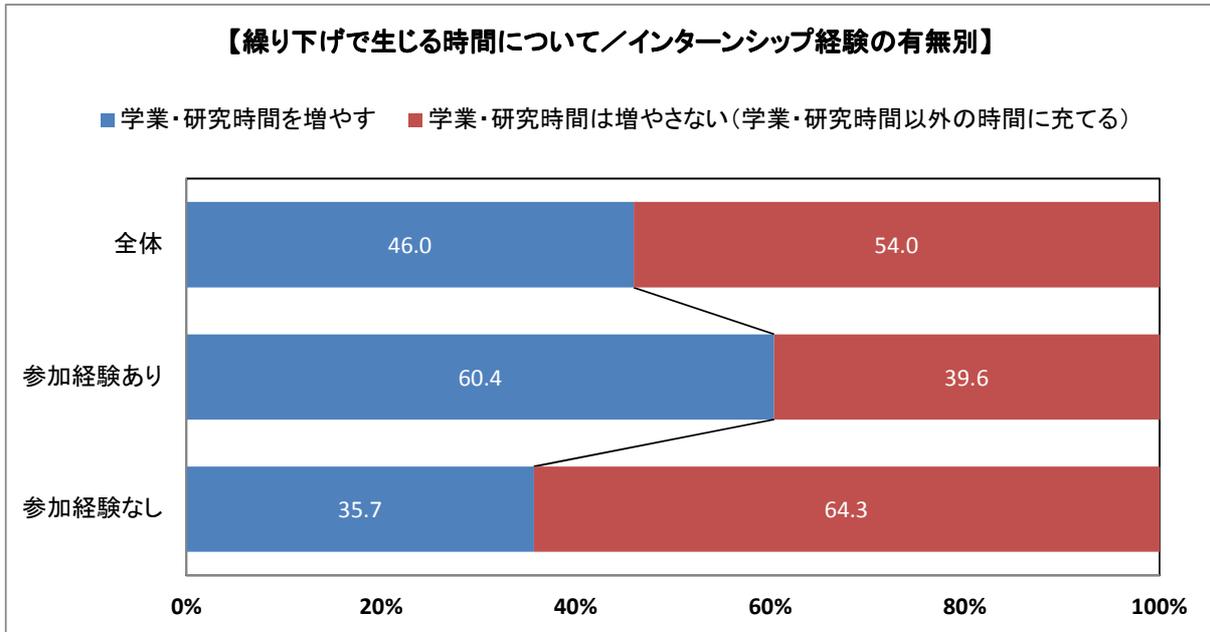
インターンシップの参加経験は、学生の就職意識にどのような影響を及ぼすのだろうか。ここからは、インターンシップ参加経験有無別に集計したデータを見ていこう。

はじめに、1-[1]で紹介した「新スケジュールへの認識」を、インターンシップ参加経験別に分析した。参加経験のある学生は「詳しく知っている」(82.7%)、「ある程度知っている」(16.8%)で、詳しく知っている学生が8割を超えた。参加経験のない学生は「詳しく知っている」(39.7%)、「ある程度知っている」(59.6%)で、詳しく知っているという学生は4割弱にとどまった。



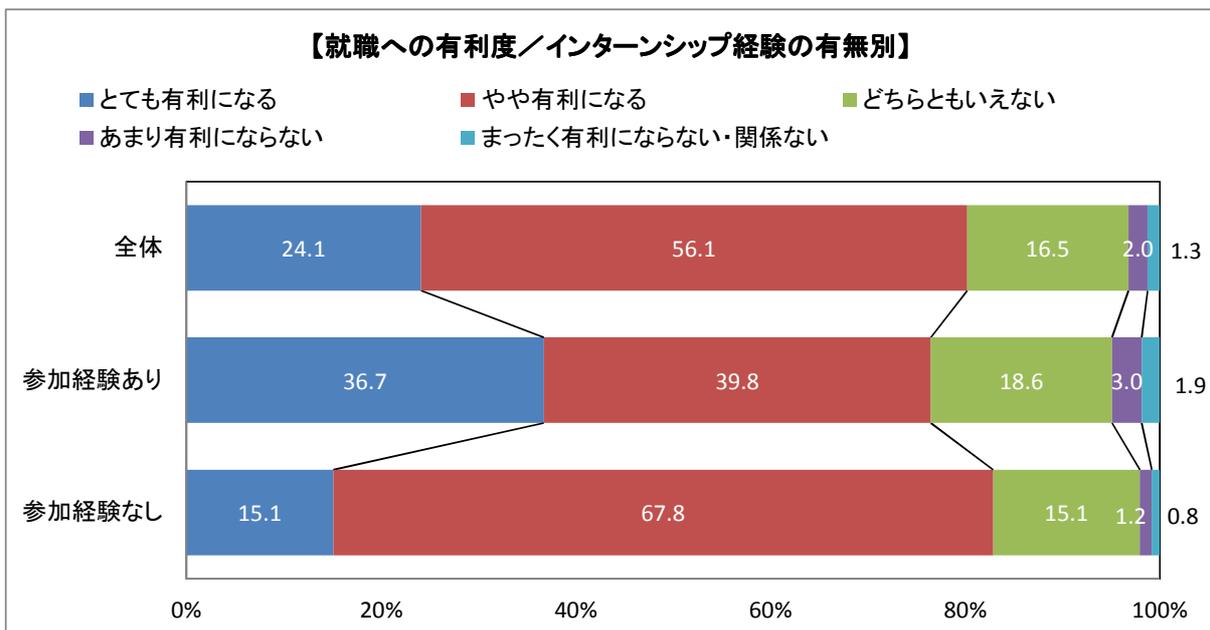
## 【2】 時期繰り下げにより生じる時間の使い方／インターンシップ経験の有無別

1-[3]で紹介した「時期繰り下げで生じる時間について」を、インターンシップ参加経験別に見てみよう。参加経験のある学生は「学業・研究時間を増やす」(60.4%)、「増やさない」(39.6%)で、学業や研究に対して積極的に取り組む傾向が見られた。参加経験のない学生は「学業・研究時間を増やす」(35.7%)、「増やさない」(64.3%)で、6割超の学生が、学業・研究時間を増やさないとの見解を示した。



## 【3】 就職への有利度／インターンシップ経験の有無別

インターンシップ経験が就職に有利になると思うかを尋ねた。参加経験のある学生は「とても有利になる」(36.7%)、「やや有利になる」(39.8%)だった。一方、参加経験のない学生は「とても有利になる」が15.1%にとどまり、両者に大きな差が生じた。インターンシップ経験が自信につながっているのだろう。参加学生のほうが、就職にとっても有利になるとの見方が強かった。



#### [4] 就職戦線の見方／インターンシップ経験の有無別

最後に、就職戦線の見通しについて紹介したい。自分たちの就職戦線が、1 学年上の先輩たちに比べてどのようになると思うかを尋ねた。

「非常に厳しくなる」(24.8%)、「やや厳しくなる」(51.6%) で、厳しくなると見ている学生は、合わせて 76.4%。一方で、「やや楽になる」(6.1%)、「非常に楽になる」(0.3%) で、楽観派の学生は、わずか 6.4%。「わからない」は 4.2%だった。就職活動スケジュールの繰り下げを控え、慎重な見方を示す学生が目立つ。

これをインターンシップの参加経験別に見てみよう。参加経験のある学生は、4 割近く (38.9%) が「非常に厳しくなる」と回答している。一方、参加経験のない学生は 14.7%にとどまり、両者に大きな差が生じた。インターンシップで社会の厳しさに触れたり、さまざまな学生と切磋琢磨する経験をしたことが、厳しい見方に繋がっているのだろうか。もともと危機意識の高い学生が、早期からインターンシップに参加しているという見方もできる。

インターンシップの経験は、就職活動前の学生にさまざまな影響を及ぼしていると言えそうだ。

